

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	⑤地下水流入抑制の敷地管理
提案件名	液状化対策
提案者	中村泰子
<p>1. 汚染水問題に関する基本方針 (9.3 原子力災害対策本部) について</p> <p>危険にさらされる作業員の安全対策を</p> <p>基本方針では、その作業を誰がするのかという観点が欠けているのではないのでしょうか。今、福島第一の収束作業現場は、ただでさえ地雷原のようなところである上に、建屋の高濃度汚染水が地下水と混じり合っ地表面に迫り、仮設タンクのあちこちから高濃度汚染水が漏れ出しています。このような想像を絶する環境で、毎日三千人の労働者が作業をさせられていることを考えると胸がつぶれる思いです。</p> <p>3.11の地震と津波でサブドレンが使えなくなったため、地下水が地上近くまで上がってきており、建屋の浮上や傾斜による配管破損などが起こりうるといいます。高濃度汚染水タンクの地盤は軟弱で、ボルト止めタンクのパッキンは劣化しています。今、地震がきたら液状化で作業員は汚染水の沼に取り残されることになってしまいます。</p> <p>たんぼぼ舎の山崎久隆氏は、本来なら地上1メートル位の空中に足場を作ってそこを歩くようにし、地表には放射能遮蔽用のタングステン板を敷くことが最低必要と指摘しています。まず、このような現場の安全対策を実施してください。</p> <p>地震は待ってくれません。まず、作業員の安全を確保しなければ、次の大惨事が起こってしまいます。</p> <p>9/19 安倍首相の福島第一視察後、新聞では、線量計交換して10時間超え労働、現場疲弊で単純ミス多発などと報じられており、国の強制的な圧力が現場にかけられていることがうかがえます。</p> <p>現場に無理を強いる作業工程ではなく、作業員の安全確保と被ばく低減の観点を重視した作業計画を立ててください。</p>	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む)</li> <li>・開発・実用化に向けた課題・留意点</li> <li>・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等)</li> </ul>	